しんぶん 小金井

2024年 7月 14日
No. 1935

●発行　しんぶん小金井社
［連絡先］　長谷川　博道
TEL　070（6666）7717
メール：jcpkoganei@gmail.com

URL　http://www.jcpkoganei.com/　日本共産党小金井市議団　検索

市民相談は日本共産党へ

森戸　よう子　東町5-14-10　☎042（383）0514

水上　ひろし　緑町1-6-7-101　☎042（301）9521

たゆ　久貴　貫井北町1-25-7-4-101　☎042（203）1362

都知事選　蓮舫候補健闘及ばず
「ひとり街宣」など民主主義の力示す

7月7日（日）に投開票が行われた東京都知事選挙で、蓮舫候補は大健闘しましたが及びませんでした。

蓮舫候補は、市民と野党の共闘でたたかった前回都知事選から、得票で約44万票・得票率で5％上回りました。

日本共産党東京都委員会は以下の見解を述べています。「都知事選挙は、幅広い市民と野党が一緒になってたたかうことができました。東京中で無数の『ひとり街宣』が行われ、SNSで多くの著名人が蓮舫支持を表明するなど、新たな動きが生まれました。日本の民主主義の力を示すものとして、今後の政治を変える大きな力と確信します。

都民の命とくらしを守り抜き、都政の転換、政治の革新をすすめる上で、今後につながるものです。

都政改革と自民党政治を終わらせるために全力を尽くす決意です。」

◆都知事選挙の開票結果◆

※一部の候補者のみ掲載、※端数は四捨五入

●東京都全体の開票結果

候補者名	得票	得票率	当落
蓮　舫	1,283,262	18.8%	落
小池ゆりこ	2,918,015	42.8%	当
石丸伸二	1,658,363	24.3%	落

●小金井市の開票結果

候補者名	得票	得票率
蓮　舫	14,372	22.2%
小池ゆりこ	26,077	40.3%
石丸伸二	14,283	22.0%

中学校教科書採択　30日の市教委で
注目される歴史教科書の採択

25年度（令和7年度）使用の中学校教科書の採択（4年ごと）に向けた作業がすすめられています。

文部科学省では、教科書採択に向けて103点の検定申請があり、その内102点が合格しています。検定合格した教科書の中から、市立学校で使用される教科書が各教科1社ずつ選ばれます。

全体として、QRコンテンツが増えてきたことやジェンダー平等・性の多様性などに触れた教科書が増えてきたなどの特徴が指摘されています。

とりわけ、歴史教科書については、太平洋戦争に「大東亜戦争」と副題をつけ、「自存自衛の戦争」「アジアを解放するための戦争」と説明するものや他国と日本の憲法改正の件数を単純に比較した表を載せ、「憲法改正」を誘導するような内容のものもあり注視することが必要です。

市教育委員会では、5月から選定作業を始め、各教育委員が見本本を調査研究し、7月30日の教育員会で教科書を採択する予定です。

都版「誰でも通園制度」10月から実施へ
「子どもの安全対策など万全に」　共産党

東京都による「多様な他者との関わりの機会の創出事業」が実施の予定です。

これは国による「こども誰でも通園制度」を東京都が先立って行うものです。目的は、「保護者の就労等の有無にかかわらず、保育所等を利用していない未就学児を保育所等で定期的に預かり、多様な他者との関わりの中での様々な体験や経験を通じて、子どものすこやかな成長を図る」としています。国制度は対象児童を0歳6カ月～2歳児・利用時間間を月10時間上限としているものを、0歳～2歳・上限なしで実施します。

市内私立幼稚園4施設で10月から事業開始の予定です。

日本共産党は、「国の『誰でも通園制度』について、子どもも保護者も、保育の専門家や家族以外の人と交流しながら子育てできる環境の整備は重要だが、子どもの安全と成長にとって問題がある」と表明。今回について「施設と合意し、職員体制や設備整備などの課題を整理しながら実施するもので反対するものではない。子どもの安全対策を万全にし、利用料金の負担軽減などを検討すべき」と主張しました。

市長に、新庁舎等建設に関する住民投票条例実現を要請

市庁舎等建設に関する住民投票条例制定求める直接請求運動の請求代表者は10日（水）、白井市長に対し「新庁舎及び（仮称）新福祉会館の建設に関する住民投票条例実現への要請書」を提出。その実現を求めました。

有効署名数は3,584人に上り、成立数の2,072人を大きく上回りました。市民の意思を確認することは、市民参加条例に則るもので、住民投票条例制定に賛同することを求めています。

※裏面参照

※裏面、住民投票条例実現の要請書を掲載

街から

都知事選は大変残念な結果でした。

感想の一つは、論戦が低調だったこと。現職候補がテレビ討論会に出席を拒み開催されなかったことなどで、樹木を伐採する神宮外苑の再開発などの都政の重大な問題や争点が十分に明らかにならなかったのではないでしょうか。

一方、蓮舫候補の訴えは日に日に発展し、晴らしかった。「トップダウンではなくボトムアップ」との主張通り、自民党都政の転換はもちろん、「国保料の引き下げ」「ピーファス対策」「低所得者への家賃補助」「奨学金返済の負担軽減」など具体的な政策を明らかにしました。こうした論戦は今後に必ず生きると思います。

また、「ひとり街宣」の広がりは、市内でも知らない方が「投票に行こう」のメッセージを掲げていたりと新しい運動の広りを確信します。

全体として、自民党政治への審判が下ったことは明らかです。政治を変えるために引き続き頑張りましょう。

（水上　ひろし）